

「西安交通大学サマースクール参加報告書」

京都大学経済学部2年 宮川蘭奈

①学習成果

現地の人々との交流を通じて、日本で中国語を学ぶのとは違った実践的な学習ができた。西安交通大学の先生方や学生はもちろん、ホテルやスーパーで一般の方と話す機会も多くあり、日常会話に必要な中国語が身についた。中国については、マスコミから得る情報によって形成された知識がほとんどであったが、実際に中国に訪問して自分の目でみてみると、それまでに思っていた中国のイメージと大きく異なる部分も多々あった。現地の学生との交流を通して、自分たちのような若い世代はこのように良い関係を築いて、現在は解決困難な問題を多く抱える両国の関係を改善できるだろうという希望も見えた。

②海外での経験

公共施設や公共交通機関など、日本とは異なる部分が多く、戸惑うことも多かったが、このようなことは海外に行ったら必ず起こることであるので、学生の間にもこのような経験ができてよかったと思う。このおかげで、一人で海外に行ける自信もついたと感じる。また、このように日本とのさまざまな違いを目の当たりにしたことで、日本の公共マナーやルール等を見つめなおすこともでき、日本の良さを再認識する良い機会となった。

③プログラム内容

午前中には単なる中国語学習にとどまらず、最近使われるようになった新しい中国語や、外来語から変化した中国語を学んだり、中国の文化、漢詩、歴史についての講義を受けたりし、非常に有意義なものだった。午後には鐘楼、兵馬俑、華清池、歴史博物館などを訪問したり、太極拳や書道の体験をしたりした。午前中の中国語の講義の最後には、今回の留学について、400字程度にまとめるという課題が課され、現地の学生に指導してもらいながら中国語で作文し、それを最後の講義で音読発表した。音読発表の後には教授から軽く質問され、それに対して中国語で答えるといったこともした。中国語での作文であったので言いたいことを伝えることがむずかしく、苦労したが、中国語での作文、音読、質疑応答を通して自分の中国語のスキルが磨かれたと思う。

④進路への影響について

進路変更等は特に考えておらず、直接的な進路への影響はないが、今後、日中両国について考える上での良い影響を受けることができたと感じている。進路への影響はないと前述したが、長期の留学によって語学力、特に勉強中の中国語能力の向上を達成したい、という思いも出てきた。自分自身の残りの大学生活や、周りの世界に対するものの考え方などにおいて視野が広がった良い経験であった。